

「海外進学」の選択肢

生活者の視点

近年は海外に出る若者が減るなど、その内向き志向が指摘されています。一方、企業では社内公用語を英語にしたり新入社員を海外赴任させたりと、グローバル人材を求めるようになっていきます。政府も「新成長戦略」の中で、留学や研修で海外交流を図る学生らの数を30万人に増やす目標を打ち出したところで



若者 グローバル人材に

地球の歩き方T&E
「成功する留学」チーフカウンセラー

西澤 めぐみ

にしざわめぐみ 1957年札幌市生まれ。米アリガムヤング大卒。外資系企業に勤務後、通算10年間、米国に滞在。アイビリーグを含め複数の大学で学ぶ。学生や社会人対象に海外留学カウンセラー活動を続ける。著書に「世界に飛びだそう！目指せ！グローバル人材」。

学び、必要単位を取得して卒業すること。短期の語学留学やワーキングホリデーなどは異なりま

す。私は20年以上、海外留学力カウンセラーとして延べ1万人超の相談に応じてきました。留学に関心を持つ若者の数は今もそれほど減ってはいません。むしろ周囲の無理解が壁になっているようなケースが少なくありません。まずは親御さんや教育関係者の皆さんに、「海外進学」について正しく理解していただきたいと思

います。ここで言う海外進学とは、海外の大学に入学し、現地の学生と一緒に

学ぶ、必要単位を取得して卒業すること。短期の語学留学やワーキングホリデーなどは異なりま

す。私が海外進学を勧めるのは、言葉もあまり通じず、知人や友人もいない環境で数年間、懸命に勉強することで、主体性や積極性、行動力が培われるからです。人に話し掛

けられなかった内気な若者がどんどん積極的になり、自分の夢を前向きに追い掛けるようになった

ケースをたくさん見ました。語学力が磨かれるのはもちろん、異なる価値観や文化的背景を持つ人々との触れ合いで、

本物のコミュニケーション力や交渉力が身に付くのです。

もう一つ強調したいのは、海外進学は決して裕福な家庭に限られた「特権」ではないということ。最近の円高で留学費用は数年前に比べ驚くほど安くなっています。

例えば、英国の大学は250万円程度で行けま

すし、米国の州立大の中には、同じく年間150

万円程度で済むケースもあります。日本で下宿や

アパート生活をしながら大学に通うのと、さほど

変わらない水準なので

ある有名進学校の教頭先生とお話ししたとき、

「東大や京大を目指す生徒ではなく、グローバルな舞台上活躍できる人材を育てていきたい」と強調されていました。確かに資源の乏しい日本にとって、人材こそが成長の

原動力。親御さんや教育関係者の皆さんには、若者を育てる有力な選択肢として海外進学を捉え、

広い視野で進路指導に当たってほしいと願っています。



海外留学を考える学生の進路相談に応じる西澤めぐみさん。東京都新宿区の地球の歩き方T&E

話し上手に勝る聞き上手

上げる。連れメカネ

下北が
好きでね

イラスト・溝口イタ

開港 話題 途半 だも 港に 活盛 願う 活性 港も 近ま 近ま 海外